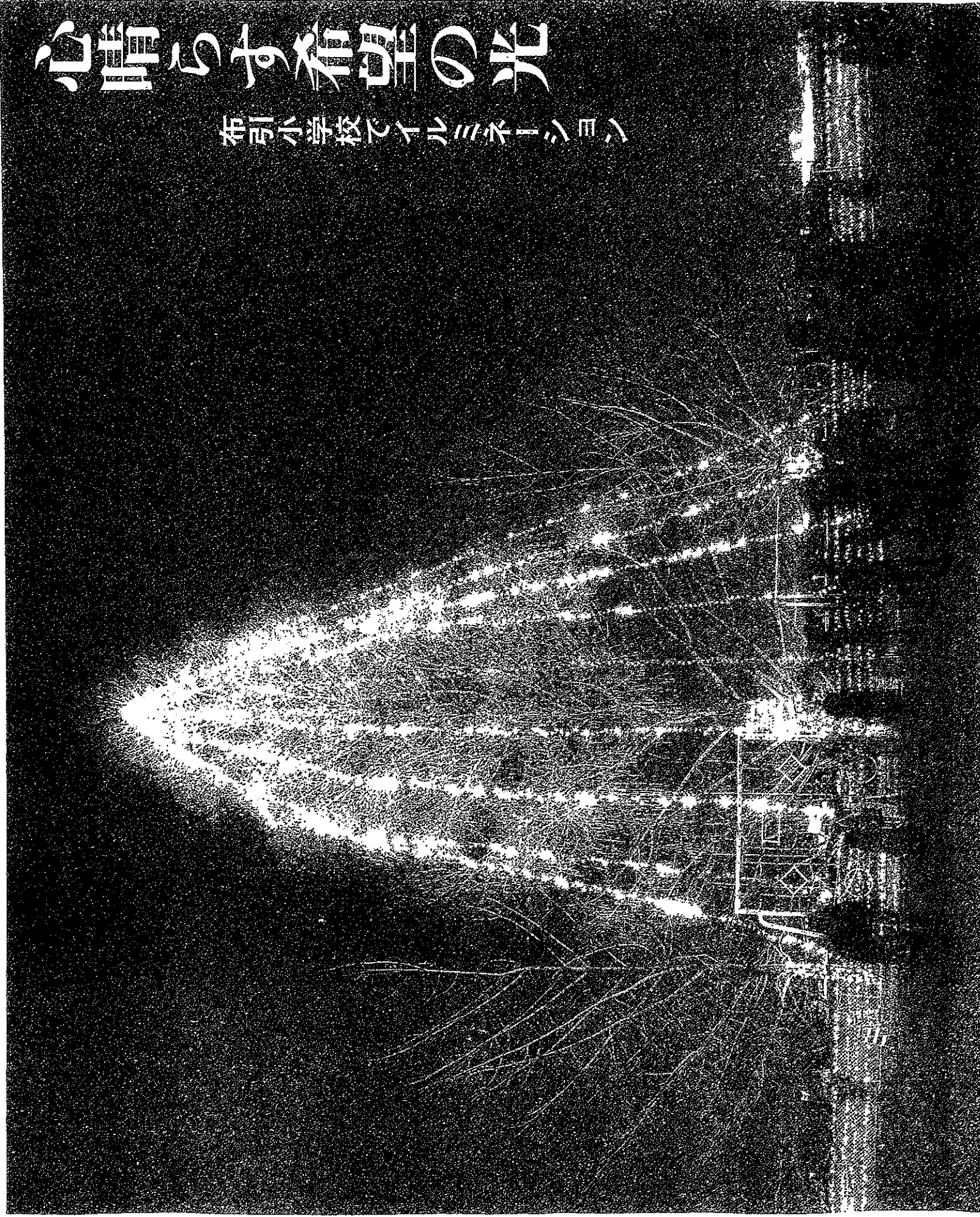


心晴らす希望の光

布引小学校でイルミネーション



布引小学校（栗田一路校長）のグラウンドにある高さ20メートルを超える大木に光が灯された。同校には大きな2つのメタセコイアの木がある。開校時に植えられたこれらの木は樹齢42年を迎え、成長する児童らを長年見守ってきた。その偉大さからか、児童たちからは「校長先生の木」「教頭先生の木」と親しまれており、同校のシンボルにもなっている。今回、高さ20メートルを超える「校長先生の木」にLED球1200個が飾られた。

コロナ禍で生活を送る子どもたちや地域住民の希望の光になればと、児童らを支援する地域ボランティア「布引っ子応援団」

（東野喜代詞代表）が中心となってイルミネーションを計画。教員やPTAのほか、コトナリエ実行委員会や地元企業の株式会社向茂組、株式会社ライフテックミツタの協力もあって実現した。

22日午後6時過ぎ、カウントダウンとともに光が灯されると、グラウンドに集まった児童とその家族らから歓声があがった。校舎一帯を明るく照らすイルミネーションに6年生の長田大輝さん（12）は「友達と一緒に見れてうれしい。明るくきれいな光で気分も晴れた」と話していた。点灯時間は午後5時から9時まで。期間は来年1月下旬まで。

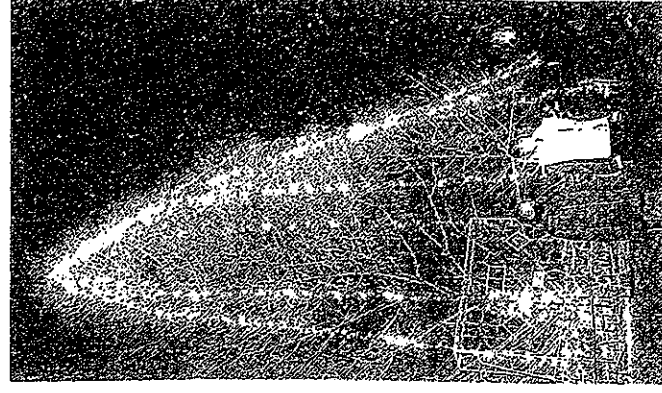
↑
2020.12月29日(火)
報知新聞

2020.12月27日(日)→
中日新聞

東近江

新型コロナウイルス禍で行事の中止や縮小を余儀なくされている子どもらを励まそうと、東近江市布引小学校で二十三日夜、校内にメタセコイアを彩るイルミネーションの点灯式があった。

木は開校当初から校庭に植えられ、高さは二十数メートル、樹齢は四十年を超えるとみられる。その大きさを「校長の木」と呼ばれ、児童に親しまれている。登下校の見守りなどのボランティアを行う地元住民の組織「布引っこ応援団」が中心となって企画。授業に協力したことがある地元建設会社と電気設備会社の賛同も得て、学校が用意



心とともす 校庭の大木

布引小 メタセコイアを電飾で彩る

した千二百球の電飾を取り付けてもらった。

児童や保護者ら五百人が集まり、声をそろえてカウントダウン。明かりがともされると、歓声や拍手が起こり、友人同士や家族で写真を撮って楽しんでいた。

六年の前川大和君（こは）は「いつもとは違う木に見えた。今年は運動会がなくなつてショックだったが、その分を取り返すくらい楽しめた」と声を弾ませた。

応援団代表の東野喜代詞さん（きよ）は「心に明るい灯をつけて、コロナに負けるな」という気持ちで企画した。喜んでもらえようという目標を挙げた。

来年一月末まで毎日、午後五～九時に点灯し、自由に見学できる。来校時は、校内駐車場の利用を呼び掛けている。（斎藤航輝）